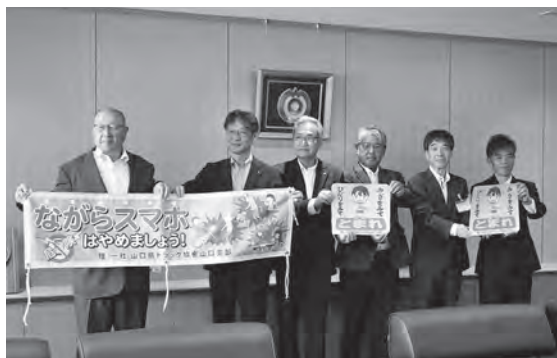




ウェブサイト  
でも公開中

## 「交通安全横断幕・ ストップマーク」の贈呈式 を行いました

一般社団法人山口県トラック協会山口支部のご厚意により、市内の小・中学校に交通安全横断幕とストップマークをご寄贈いただき、7月11日（金）に贈呈式を行いました。寄贈される物品は、横断幕58枚、ストップマーク173枚で、通学路への掲出や歩道への貼り付けなどにより、歩行者が横断する際の注意喚起と児童生徒のながらスマホを防止するといった、交通安全意識の向上を図ります。



▲記念撮影の様子

一般社団法人山口県トラック協会山口支部の水津典義支部長は「横断幕やストップマークが子どもたちの目に触れ、読んでもらえることで、登下校や日常生活の中で事故防止につながることを願っている。トラック協会も地域の皆さんと一丸となり、安全なまちづくりに取り組んでいくため、子どもたちが元気に安全に学校生活を送り、楽しい夏休みが送れるよう、心からお祈り申し上げます」。

市長は「運送業界の健全な発展に努められる中で、交通安全にもしっかりと取り組んでいращることに心から感謝申し上げます。ご寄贈いただいた横断幕やストップマークを小・中学校の校内や通学路に設置することで、子どもたちの交通安全への意識改革につなげたい」と感謝の意を伝えました。  
固生活安全課 ☎ 083・934・2765

## 「暑い夏を乗り切ろう！ 熱中症対策標語コンテスト」 の表彰式が行われました

7月23日（水）に「暑い夏を乗

り切ろう！熱中症対策標語コンテスト」の表彰式が行われました。このコンテストは、令和3年3月に本市と包括連携協定を締結した大塚製薬株式会社様が、市民の健康増進と地域の活性化に関する取り組みの一環として、市内の小・中学校の児童生徒を対象に作品の募集が行われたもので、応募のあった179作品の中から、小学生の部と中学生の部の優秀作品に選ばれた8作品を表彰しました。



▲記念撮影の様子

表彰にあたり、大塚製薬山口出張所の古川保教所長は「熱中症は誰にでも起こりうる健康リスク。特に成長期の小・中学生の皆さんが正しい知識を持ち、予防の行動をとることはとても大切なこと。

皆さんの標語が地域の安全と健康を守る力になることを心から願っている」と述べられました。

市長は「市民の皆様に標語をしっかりとお知らせして、熱中症にかからないような態勢がとれるようにしていきたい。また、受賞された皆さんも熱中症対策をして、楽しい夏休みを過ごしていただきたい」と受賞者を称えました。

固スポーツ交流課 ☎ 083・934・2875

## 山口市地域おこし協力隊 着任式を行いました

本市では、都市圏在住者等を「地域おこし協力隊」として任用し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこし活動を行いながら、協力隊の定住・定着を図ることを目的とした取り組みを進めています。

このたび、湯田地域において「廃業旅館の新たな活用等を通じた「住んでよし・訪れてよしの湯田温泉」まちづくり」をテーマに活動する桑折司さんと桑折理絵さんが着任されることから、8月5日（火）に着任式を行いました。

市長は「本市の地域おこし協力隊の新たな仲間として、ご夫婦でお迎えできることを、心より嬉しく思っている。これからお二人が

活動される湯田地域は歴史に彩られたまちであり、昨年ニューヨーク・タイムズ紙に掲載されたことから、観光客が増え、宿泊需要のある地域。お二人には、使われなくなった旅館をゲストハウスに生まれ変わらせる取り組み等を行っていた。ぜひ、湯田地域に新しい風を吹かせていただきたい」と激励しました。



▲記念撮影の様子

桑折司さんは「魅力的な湯田温泉で、地域の一員として、皆さんと一緒に活動できることが楽しみ。観光客の方と地域の方が共に楽しめるような拠点づくりをしていきたい」、桑折理絵さんは「地域の皆さんと温かい関わりを重ねながら、湯田温泉の魅力を国内外に丁寧に発信したい」と今後の抱負を述べ

られました。  
 観光交流課 ☎ 083・934・2810

### 羽毛リサイクル回収ボックスの設置式を開催しました

羽毛リサイクル（UMOUプロジェクト in 山口）は山口県共同募金会が平成27年から実施している事業です。使わなくなった羽毛製品を市民から回収して羽毛のリサイクルを行い、そのリサイクルの収益金の一部が、赤い羽根共同募金を通じて地域福祉活動に活用されています。

これまで、回収協力店での回収が行われていましたが、本市の公共施設として初めて、山口市リサイクルプラザ本館に回収ボックスを設置するにあたり、8月8日（金）に、羽毛リサイクル回収ボックスの設置式を開催しました。

市長は「本市のごみ集積所では、羽毛布団の収集をしておらず、その多くは、山口市リサイクルプラザに隣接する清掃工場に持ち込まれ、焼却処理している。今後、羽毛製品が回収され、羽毛のリサイクルが促進されることで、本市における3Rの推進がより一層図られるものと期待している。また、本プロジェクトを進めることで、市民の皆様の環境意識の向上を図

るなど、循環型社会の構築に向けた取り組みをさらに推進していきたい」とあいさつしました。



▲記念撮影の様子

山口県共同募金会の大窪正行会長は「市民の皆さんの環境問題や福祉についての関心が高まり、羽毛の回収量の増加にもつながっていくことを願っている」、山口市共同募金委員会の徳永雅典会長は「羽毛リサイクルの収益金の一部は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現に生かされているため、ぜひ羽毛プロジェクトにご協力いただきたい」と述べられました。

資源循環推進課 ☎ 083・941・2185

### 表紙の写真

#### 夏休みの思い出のページ

表紙の写真は、仁保にある嘉村磯多の生家「帰郷庵」で、鮎を塩焼きにしている様子です。

毎夏、仁保地域では磯多が生きた時代の農村生活体験を行うことで、帰郷庵を核とした地域交流を図ろうと、地域の方が「鮎のつかみ取り体験」を行っています。今夏も、幼児から中学生までの幅広い年代の子どもたちとその家族が集まり、約100匹もの鮎のつかみ取りを楽しんだ後、地域の方から鮎の塩焼きづくりを教わっていました。

参加した子どもたちの中には、魚を触ったことがない子や苦手な子もいましたが、自分で取って、塩焼きにした鮎の味は格別なようで、脂ののった鮎を骨までペロリと平らげていました。

また、子どもたちは、虫とりをしたり、帰郷庵の中を探検したりと、仁保の豊かな自然を体全体で楽しんでいる様子でした。

広報広聴課 ☎ 083・934・2753



▲俊敏に動き回る鮎を追い込み、素早く捕まえる子どもたち